



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

6月（水無月：みなづき）梅雨の時期となりました。日本列島に低気圧や前線が近づき、気圧の変化や寒暖の差で体調を崩しやすくなります。無理せずにやっていきましょう。

～RSウイルス・ヒトメタニューモウイルスについて～

共に気管支炎や肺炎を起こすウイルスです。小児科では毎年流行があり、年長児では咳がひどい風邪で済みますが、乳児がかかると急性細気管支炎や肺炎を起こす心配があります。鼻水や咳、発熱の症状で始まり、咳が日に日にひどくなっていきます。特に悪化してくるのは発症から3日目位からです。咳の勢いで吐いてしまったり、苦しくて哺乳量が減ったり、顔色が蒼白くなったりする場合は医療機関を受診しましょう。鼻水がひどいときは、乳児ではまだ鼻をかむことが出来ませんので、授乳前や寝る前に鼻水を吸ってあげると良いでしょう。鼻水は、口で吸ってあげたり、電動鼻水吸引機で吸ってあげたりしましょう。時間帯では夜間から明け方が最も苦しくなりやすいです。喘鳴や痰からみの咳がひどいときは、頭のほうを高くしたり、抱っこしたりすると呼吸が楽になります。年長児でも、咳や痰が長期間続きます。睡眠時間をしっかりととり、体を冷やさないようにして免疫力を高めるようにしましょう。

～麻疹について～

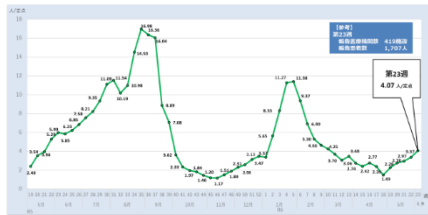
東京都で2月と3月に6例発生した麻疹は、5月の3週目に1例発生した後、報告が出ていません。日本の小児では95%のワクチン接種率があり、大流行には至らずに済んでいます。

～新型コロナウイルスについて～

今年の4月下旬以降、定点機関測定数は増加していますが、ゆるやかな増加となっています。現在流行中の型は引き続きオミクロン株ですが、かなり軽症化しています(↓定点観測数のグラフ)。

～新型コロナワクチンについて～

令和6年3月31日をもって新型コロナワクチンの特例臨時接種は終了し、東京都の大規模接種開錠も終了しました。4月以降は60-64歳で重症化リスクの高い方対象とした定期接種(秋冬の年1回)に変わりました(原則有料)。



～新型コロナワクチン副反応について～

2024年4月までに厚労省に発表されている副反応は、因果関係不明ですが、累計約3万7千件、そのうち重篤副反応が8988件、死亡が2193件となっています。我が国の予防接種史上最大の副反応が出ています。これらは厚労省ホームページからどなたでもご覧になれます。

2024年6月3日までに公表された新型コロナワクチンの予防接種健康被害救済制度の認定累計件数は過去最高の7,384件となりました。1977年2月からのコロナワクチン以外の予防接種健康被害認定件数の過去46年分の総数3,666件を大幅に上回りました。

予防接種健康被害救済制度とは、予防接種(定期接種、臨時接種)による健康被害が生じた場合に予防接種法に基づく救済が受けられる制度のことです。給付の種類には、①医療機関で医療を受けた場合の医療費および医療手当、②障害が残ってしまった場合の障害養育年金、③亡くなられた場合の葬祭料や死亡一時金の3つがあります。

表：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	208
2	胃腸炎(デノ1回3含む)	108
3	RSウイルス	13
4	新型コロナウイルス	10
5	突発性発疹	8
6	ヘルパンギーナ・手足口病	3
7	咽頭アデノウイルス	2
8	ヒトメタニューモウイルス	1
8	水ぼうそう	1
8	おたふく風邪	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。<https://www.ssn-clinic.net/index.html>

～あんずからのお知らせ～

★空き状況はWebでしみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★キャンセルをされる場合留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項
診察を受けた病名によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。

